



発行

特定非営利活動法人まつどNPO協議会

生活支援体制整備事業(松戸市から受託)の取り組みとして実施しました

高齢者の困りごとを 地域で支える暮らしづくり

2022年度生活支援コーディネーター活動報告



目次 contents

1 事業の概要03

2 15地区の活動報告04

① 本庁地区	マンションの繋がりづくり・ごちゃまぜの場に認知症の方の役割を04
② 矢切地区	住民主体による移動支援活動06
③ 東部地区	居場所開設に向けて ～うきうきフェスタとまちの談話室～08
④ 明第1地区	地域との繋がりをつくるためのニュースレターとスマホ使い方相談会10
⑤ 明第2西地区	要支援者/要配慮者の避難行動の検討と避難訓練12
⑥ 明第2東地区	イザッというときの備え～地域資源マップ(災害編)の作成と地域のつながりを作ろう～14
⑦ 常盤平地区	災害に備える地域づくり～見守りの視点で地区社協や町会の活動を見直そう～16
⑧ 常盤平団地地区	常盤平団地でハッピーに暮らそう!18
⑨ 五香松飛台地区	地域資源マップを見直し、活用できるようにしよう20
⑩ 六実六高台地区	ウォーキングマップの活用とシニアにやさしいごみ分別週間表と年間カレンダーを作ろう22
⑪ 小金地区	小金にこんなことあったらいいなプロジェクト～地域の助け合い活動を町会とのコラボで実現～24
⑫ 小金原地区	8050・ひきこもり→多世代交流についての啓発活動と小金原団地における助け合い活動26
⑬ 新松戸地区	歩き続けられる街を目指す～公園での健康づくり活動&ベンチプロジェクト～28
⑭ 馬橋西地区	男性シニアの社会参加から多世代交流の場をつくる30
⑮ 馬橋地区	多世代の居場所・つながりづくりと高齢者×ペットの問題検討ワーキング32

3 災害から命と暮らしを守る～地域ミーティング～33

4 地域づくり報告会34

事業の概要

生活支援体制整備事業

(生活支援コーディネーター)について

後期高齢者・単身世帯の増加から、介護を必要としないまでも、軽度の**生活支援・介護予防**を必要とする高齢者が増加しており、地域の体制を考える必要性が高まっている。

地域で起きている「日常の困ったな」をみんなで解決できないだろうか。

地域で長く元気に生活できる仕組みを、地域の皆さんと一緒に考えて、地域に合った形を作っていくものです。

地域に必要な「生活支援・介護予防」とは？

例えば /

- ・地域のサロンの開催
- ・見守り、安否確認
- ・外出支援
- ・買い物、調理、掃除など・・・

こういった活動に参加(社会参加)することも介護予防に効果があることがわかっています。

一律の制度では、地域の実情やニーズとミスマッチを起こしがち・・・

そのため /

- ・地域によって異なる課題に合わせて
- ・地域に合った形を考えていく必要がある。



生活支援コーディネーターがサポートします!!

生活支援コーディネーター (地区担当/日常生活圏域別)



松村 大地

担当地区…本庁・矢切・東部・明第1・明第2西



山崎 恵

担当地区…明第2東・常盤平・常盤平団地・五香松飛台・六実六高台



阿部 剛

担当地区…小金・小金原・馬橋・馬橋西・新松戸



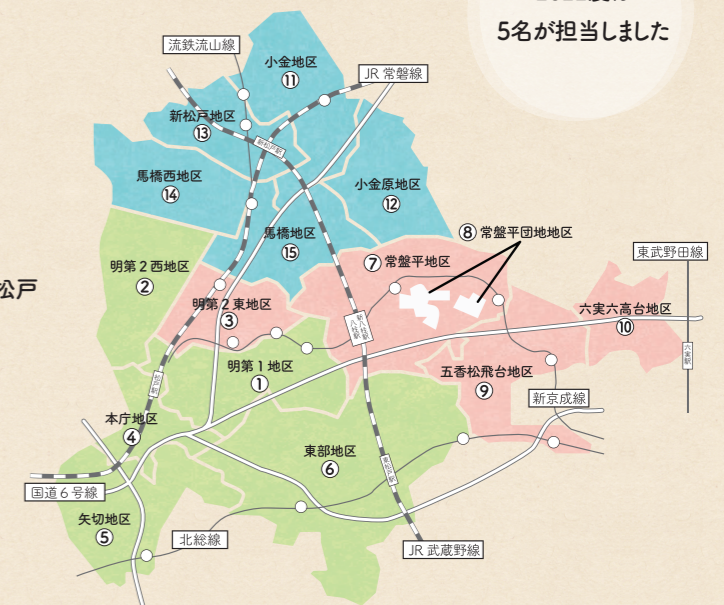
井坂 千穂

マンションコミュニティ(本庁)、明2東



平野 将人

ラジオ体操の運営(常盤平団地)



① 本庁地区

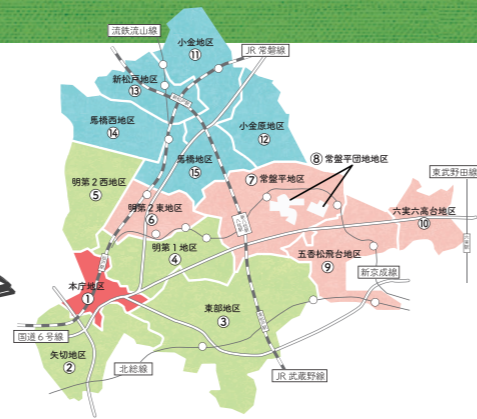
本町・松戸・小山・二十世紀が丘美野里町

マンションの繋がりづくり・
ごちゃまぜの場に認知症の方の役割を

本庁地区の現況(令和2年10月時点)

総人口	25,117人
高齢化率 (松戸市平均25.7%)	20.5% ※15地区内で一番低い
75歳以上人口比率 (松戸市平均13.4%)	10.3% ※15地区内で一番低い
元気応援くらぶ	4ヶ所

- 松戸駅、松戸神社、キテミテマツド等商店などランドマークが並ぶ
- マンション(小中大規模いづれも)が多い



2022年度ワーキングテーマ

マンション+コミュニティPJ

マンション住民の高齢化に対して、**住民間のつながりやコミュニティ意識を醸成していくプロジェクト(3年目)**

ごちゃまぜPJ

子どもや若い世代が**認知症の方**と接点を持つ機会を創出し、**認知症の方が役割を持つ機会**や場を地域で創出することを旨としたプロジェクト

マンション+コミュニティPJ

マンション住民の高齢化に対して、住民間のつながりやコミュニティ意識を醸成していくプロジェクト(3年目)

「マンション」**自体**(管理運営に関する意思決定)と**マンションに住む「住民」**いづれも**老朽化/高齢化する中でどんな準備・備えが必要なのか?また現状はどうなのか?**

マンション+コミュニティプロジェクト Vol.4
松戸市内
マンションでの高齢化
を考えるワークショップ

7/26(火) 15:00~16:30

マンション年表
(将来への不安・トラブルの発生)

	1年~5年	6年~15年	16年~25年	26年~35年	36年~
将来への不安	1居住戸数を守れない居住者の増加	1大規模修繕の実施	1修繕積立金の不足 2居住ルールを守らない居住者の増加	1居住者の高齢化 2理事の選任が困難 3無関心な区分所有者の増加 4大規模修繕の実施	1居住者の高齢化 2理事の選任が困難 3無関心な区分所有者の増加 4大規模修繕の実施
トラブルの発生	1生活音 2違法駐車 3共用部下への私物放置	1生活音 2違法駐車	1生活音 2水漏れ 3違法駐車 4ペット飼育	1水漏れ 2ペット飼育 3違法駐車 4共用部下への私物放置 4雨漏り	1水漏れ 2ペット飼育 3違法駐車 4共用部下への私物放置 4雨漏り

マンション管理は結局は
コミュニケーションなど
住民同士のつながりが大切

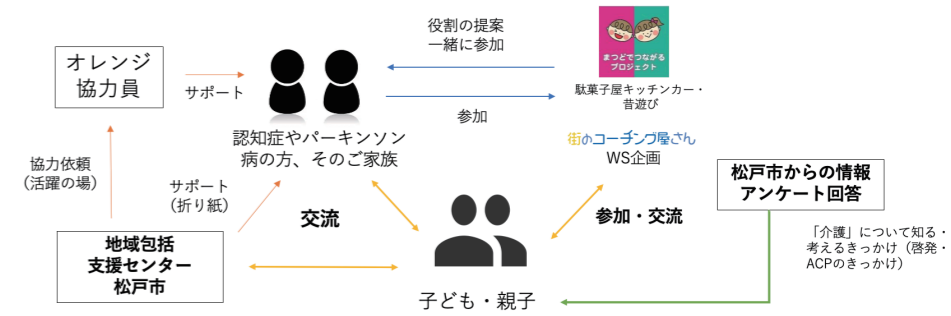
見守りの事例や災害時の
要支援者対応など知りたい



参加者:10名

ごちゃまぜPJ

子どもや若い世代が認知症の方と接点を持つ機会を創出し、役割を持つ機会や場を地域で創出することを旨としたプロジェクト



ワークショップ参加者
(受付集計)142名



協力してくださった高齢者へのアンケート

- ①Aさん
- ・最初は行くのが嫌だったが行ってみたら楽しめた
 - ・手作業が好きだから機会があればまた参加したい
 - ・小物づくりや編み物ならできることがあるかも
 - ・(ご家族より)外に出て人と交流する良い機会だった

参加者アンケート

回答者38名(40代19名、30代14名)

①介護について相談できる地域包括支援センターをご存知ですか?

知らない:26名(68.4%)
知っている:10名(26.3%)
利用したことがある:2名(5.3%)

今後に向けて

<マンション+コミュニティPJ>
2層ワーキングや交流会の実施を通じて、助け合いなどニーズにあるマンション運営に関するノウハウや事例を構築し、マンション運営(コミュニティ)や高齢者支援に特化した冊子の作成を目指す。

<ごちゃまぜPJ>

- ・地区内で現役世代(子育て)や子どもの集まる場に認知症の方などの参加を定着させ、役割を見出していくため地域資源との連携を深める
- ・オレンジ協力員主体の認知症カフェ定期開催を現在準備中。

② 矢切地区

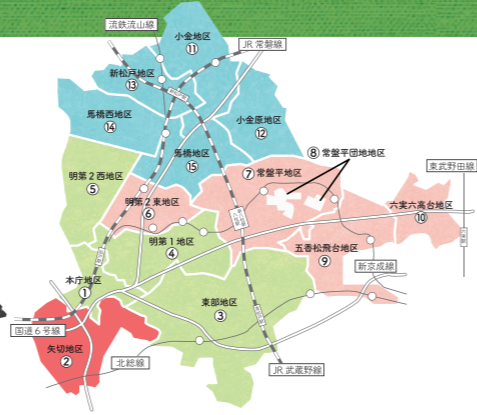
上矢切・中矢切・下矢切・三矢小台1~5丁目 二十世紀が丘柿の木町・二十世紀が丘 萩町・大橋〔旧有料道路(県道松戸・原木線)西側〕・栗山

住民主体による移動支援活動

矢切地区の現況(令和2年10月時点)

総人口	19,368人
高齢化率 (松戸市平均25.7%)	26.7%
75歳以上人口比率 (松戸市平均13.4%)	14.7%
元気応援くらぶ	8ヶ所

栗山、上矢切、下矢切等交通に不便なエリアが多い



住民主体による移動支援活動の運行
昨年度試行した移動支援の更なる
ニーズ把握や運行体制の整備に注力。

メンバー

- ・町会長
- ・矢切地区社会福祉協議会 会長
- ・矢切地区民生委員児童委員協議会 会長 副会長など
- ・特別養護老人ホーム
- ・元気応援くらぶ運営者
- ・松戸市社会福祉協議会
- ・矢切地区高齢者いきいき安心センター
- ・松戸市地域包括ケア推進課
- ・まつどNPO協議会

ハートパス矢切

地域に住む人の心(ハート)をつなぎ
生きがいにもつながる移動支援

昨年度

特別養護老人ホームなどでこさんの車両を活用し、矢切地区社会福祉協議会かもめの会の参加者のうち移動支援を必要な方への移動支援を、試験的に2回実施。



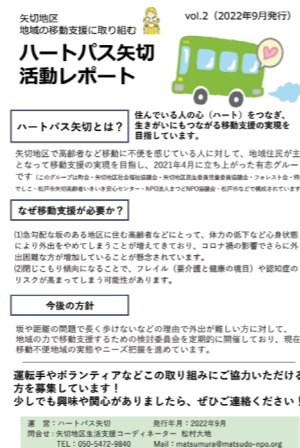
運転ボランティアの確保、
対象者や実施体制の再検討が必要

今年度の活動

1 運転ボランティアの確保

- ① 町会への理解促進のための説明会開催町会長(移動支援 想定町会)や地区会への説明を計4回実施
活動の必要性和運転ボランティア募集協力を依頼

- ② 活動レポートの作成発行



2 対象の実態・ニーズ把握

民生委員さん協力のもと、想定対象へのアンケート実施

矢切民生委員の協力のもと、対象地区民生委員の判断にてお一人暮らしの方や買い物に不安を感じているであろう方に対してアンケート記述式またはヒアリングにて代筆回答
回答総数：102人(有効回答：101)

回答者傾向

- ①年代：80代、70代
- ②家族構成：夫婦お二人暮らし、お一人暮らし、二世帯。
- ③外出頻度：週3-4回、毎日、週1回。
- ④外出目的：買い物、受診、銀行又は郵便局
- ⑤外出手段：徒歩または自転車、バス、家族の送迎、
自家用車(⇒現時点でご自身で移動ができている方が多かった)

ニーズ

- ①積極的に外出(移動)支援を利用したい、できるなら利用したいが約8割と支援のニーズは高かった。
- ②その目的は買い物や受診、銀行が多く現在の移動目的と同様日常的な目的が多かった。

3 運行方法の検討

個別訪問ではなく、駐車場(ルート)の検討。
2層ワーキングメンバーで実際に周りながら車両停車が可能な場所を検討。その後町会長にも報告。

※対象地区：上矢切第二町会、上矢切第三町会、中矢切町会、下矢切第一町会、下矢切第二町会、下矢切第三町会、栗山第一町会



現在と今後に向けて

(1)現在:グリーンスローモビリティ導入に向けて

- ① 矢切連合町会(地区会)を中心に実行委員会が立ち上がった。
導入に向けて、今年度ハートパスで実施した実態・ニーズ調査の結果やルートマップを共有。
- ② 地域づくり交流会(2023年3月20日)として、認定NPO法人たすけあいの会ふれあいネットまつど代表と副代表をお招きし、有償ボランティアによる移動支援(福祉有償運送)について情報提供・意見交換の場を実施した。

(2)今後のハートパス矢切の役割

- ① 今年度の運行実施はかなわなかったが、地域住民の実態やニーズの把握、活動意義の周知など移動支援実施における着実な準備の甲斐もあり、地域で始めるグリーンスローモビリティ開始への協力や連携ができた点はよかった。
- ② グリーンスローモビリティ開始後にどのくらいニーズをカバーできたなどさらなる実態把握を通じ、坂のみに特化した移動支援や日常的な移動支援の可能性を探るべく、3月(今月)認定NPO法人たすけあいの会ふれあいネット松戸の移動支援の取り組みについてヒアリングを実施予定。

③ 東部地区

河原塚・田中新田・紙敷・紙敷1~3丁目・東松戸1~4丁目 秋山・秋山1~3丁目・高塚新田・和名ヶ谷 大橋〔旧有料道路(県道松戸・原木線)東側〕・二十世紀が丘 丸山町 二十世紀が丘中松町・二十世紀が丘山町・二十世紀が丘梨元町

居場所開設に向けて

～うきうきフェスタとまちの談話室～

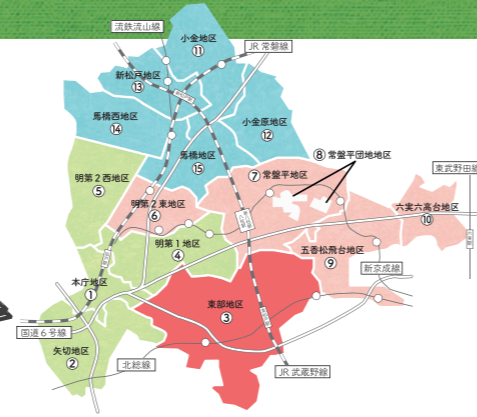
“まちの談話室”の開始

「定期的な開いている場が必要」という2層ワーキングメンバーの共通の思いのもと、お話ししたり卓球したりできる時間や参加者みんなで歌を歌う取り組みへ

東部地区の現況(令和2年10月時点)

総人口	49,759人
高齢化率 (松戸市平均25.7%)	20.9%
75歳以上人口比率 (松戸市平均13.4%)	10.6%
元気応援くらぶ	5ヶ所

人口増減率
(64.1%/H28時点)
が高い



高齢者が地域に
気軽に行ける場所

場の開設

場にいる
人の教育

場の再開

まちの談話室
坂の下のうきうきハウス

利用料 無料 (申込不要)

基本第2・4水曜日
1月25日
2月8日・22日
3月8日・22日

10時～16時
10時～12時
卓球もできる談話室

13時～15時
青春ポップス歌おう会(歌声喫茶)

卓球したり、歌を歌ったり。ちょっとお話しに立ち寄りたり。好きなときに好きなように過ごすことのできるまちの談話室です。

おねがい
✓手指衛生やマスク着用など感染対策にご協力をお願いします
✓卓球参加の場合、怪我予防のため室内履きをご持参ください
✓駐車場はありません(駐輪スペースあり)

お問合せ先 090-8847-8623 (担当: 浮ヶ谷)
080-5873-6422 (担当: 小塚)

主催: 坂の下のうきうきハウス (生活文化課特別協賛事業の一環として実施しています) 1階の下のうきうきハウスホームページ



笑いよかた
居場所
居場所のサポート



2023年1月25日オープン

利用料 無料 (申込不要)

まちの談話室
坂の下のうきうきハウス

オーナー 浮ヶ谷さん

とき 基本第2・4水曜日
1月25日
2月8日・22日
3月8日・22日

じかん 10時～16時
10時～12時
卓球もできる談話室

13時～15時
青春ポップス歌おう会(歌声喫茶)

卓球したり、歌を歌ったり。ちょっとお話しに立ち寄りたり。好きなときに好きなように過ごすことのできるまちの談話室です。

おねがい
✓手指衛生やマスク着用など感染対策にご協力をお願いします
✓卓球参加の場合、怪我予防のため室内履きをご持参ください
✓駐車場はありません(駐輪スペースあり)

お問合せ先 090-8847-8623 (担当: 浮ヶ谷)
080-5873-6422 (担当: 小塚)

主催: 坂の下のうきうきハウス (生活文化課特別協賛事業の一環として実施しています) 1階の下のうきうきハウスホームページ

ところ 松戸市大橋1102 (地図検索は大橋1103-1)
坂の下のうきうきハウス
※ミニストップ(コンビニ)のとなり

居場所開設の周知拡大

日時:2022年6月11日(土)10時～16時
6月12日(日)10時～15時
来場者数:6月11日:48名・6月12日:31名

坂の下のうきうきハウス
うきうきフェスタ2022



今後(次年度)に向けて

<まちの談話室の参画者拡大・運営体制の整備>

近隣地域住民など高齢者の役割や居場所という点で、まちの談話室がさらに周知されるように取り組む。持続的に活動ができるように参画者(スタッフ)の拡大や現メンバーが無理なく、けど安定した運営体制になるようにしておく。子どもたち(遊び・学習など)が気軽に立ち寄れる場所にしたいというオーナーの気持ちを再度確認、メンバー共有を図っていく。

④ 明第1地区

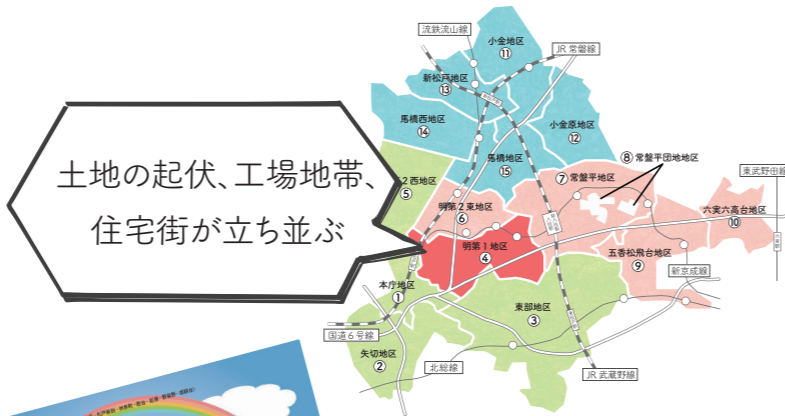
根本・吉井町・小根本・緑ヶ丘1~2丁目・松戸新田・
仲井町1~3丁目・穂台・穂台1~8丁目・岩瀬・野菊野・胡録台

地域との繋がりをつくるための
ニュースレターとスマホ使い方相談会

明るさ一番ニュースレターの作成・発行

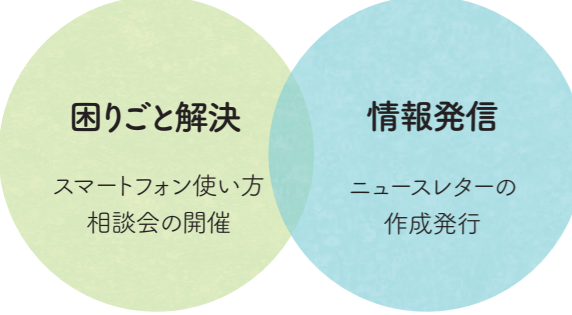
明第1地区の現況 (令和2年10月時点)

総人口	55,745人
高齢化率 (松戸市平均25.7%)	23.2%
75歳以上人口比率 (松戸市平均13.4%)	11.9%
元気応援くらぶ	10ヶ所



土地の起伏、工場地帯、
住宅街が立ち並ぶ

コロナ禍で途絶えてしまった
地域の繋がりを創出する



明るさ一番メンバー (2層ワーキング)

- 地区会役員
- 連合町会福祉部会
- 松戸市社会福祉協議会
- 地区社協役員
- 地域住民
- 地域包括支援センター
- 町会/自治会長
- 小学校PTA
- 松戸市地域包括ケア推進課
- 民生委員
- 子ども食堂運営者
- 生活支援コーディネーター
- 老人会役員
- 大学生

スマートフォン使い方相談会の開催 (今年度 年4回開催) 地区社協との共催

専門家が対応するのではなくスマホを日常使いしているシニアや現役世代・大学生と一緒に操作を試したり検索しつつ、雑談を交えながらコミュニケーションの中で対応。

松戸市明第1地区
根本・吉井町・小根本・緑ヶ丘・松戸新田・仲井町・穂台・岩瀬・野菊野・胡録台

合同企画
「明第1地区社協」
「明るさ一番」

お近くの会場で開催
定員：10名程度 (予約優先) 参加費：100円
お申込み：050-5472-9840 松村まで

な～るほど！スマホ

検索
写真
メッセージ
予約・申込
道案内

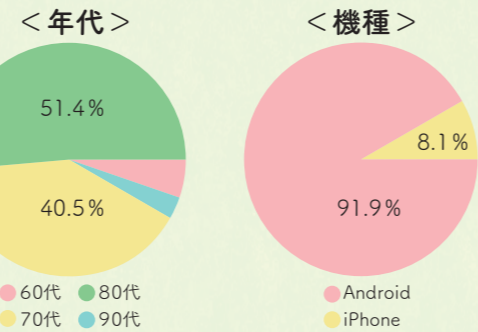
2022年(令和4年) 13:30
6.30 15:30 野菊野団地集会所

2023年(令和5年) 13:30
9.29 15:30 会場：岩瀬自治会集会所 (いわせ公民館ホール) 松戸市岩瀬3-8

主催：「明第1地区社会福祉協議会」「明るさ一番実行委員会」
協賛：NPO法人まことNPO協議会 担当：松村 大地 050-5472-9840
※ 松戸市地域包括ケアシステム推進協議会事務局の委託を受けて運営しています。



参加者：のべ43名(3回開催)
スタッフ：のべ39名(3回開催)



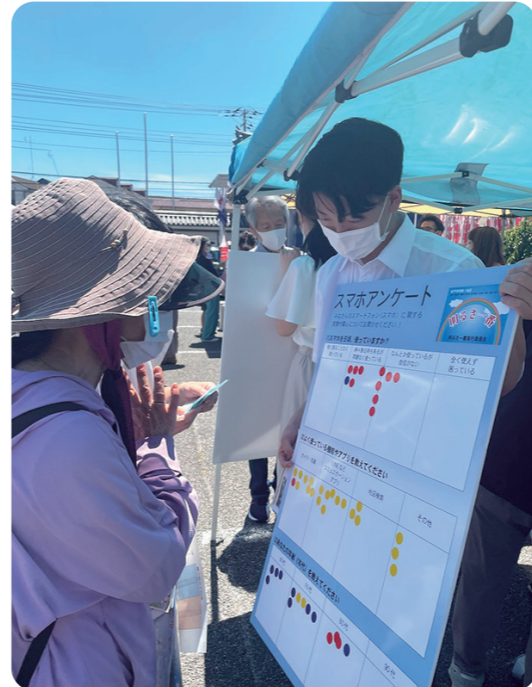
- <相談内容(一部)>
- 設定変更が分からない(待受、音量調整など)
 - 写真の送り方が分からない
 - メールの消し方が分からない
 - QRコードの使い方が分からない
 - アプリのインストールの仕方が分からない
 - 地図アプリの使い方が分からない(電車乗換)

今後に向けて

2023年2月20日(月)10時~12時
LINE講座(中級者向け)+活動報告会
参加者:30名

スマホ相談に対応できるスタッフの
発掘を狙ったが、そこまで使い慣れて
いない方が多く参加した結果と
なった。

繋がりがづくりとしてのニュースレター発行やスマホ相談会のニーズを今後どう展開するか。
またコロナ禍前のテーマであった「シニアの社会参加」を再度取り組むことも視野に既存
の取り組みや他事業との連動性を見据え、改めて活動の意義や内容を検討中。



松戸市明第1地区 (根本・吉井町・小根本・緑ヶ丘・松戸新田・仲井町・穂台・岩瀬・野菊野・胡録台) News Letter
2022年
秋・特集号
Vol.4
発行：明るさ一番編集チーム
事務局：NPO法人まことNPO協議会

第4弾となる今回の明るさ一番ニュースレターのテーマは、ずばり「学生が発見した、明(あきら)第一地区の魅力」です！まこと市民活動サポートセンターが主催する「Let's!体験2022」という夏休みのボランティア体験を通じて、明第一地区の魅力を発見しその内容を記事にするという企画に4名の学生が参加してくれました。

夏休みに開催されたイベントへの参加や、シニア向けスマートフォンの実践講座への呼びかけ、さらにお寺への取材も、それぞれ体験に参加した4名の学生がまとめた記事を通じて、皆さんにも明第一地区の魅力を感じていただけたら嬉しいです。ぜひじっくりご覧ください！

学生が発見した、明(あきら)第一地区の魅力(1)
「こあら食堂」夏祭り(2022年7月14日)取材
こあら食堂 代表 石塚 裕
7月のこあら食堂はいつもお世話になっている地元
の御膳の駐車場をお借りして「こあら夏まつり」
を開催しました。キッチンカーや様々なブース、松戸
市広域ネットワークの「はげごろう」も来てくれ、多
くの人が賑わいました。

学生レポート 高校3年生男子
高齢者のむくみ対策とスマートフォンに関するアンケート
調査を通じて、改めて行われているようなテレビの取材やアンケ
ートと比べて、お祭りという楽しい場がより身近に感じられ
たと感じました。

御膳のことは、おばあちゃんやおじいちゃんと一緒に
お祭りに来ていこうです。
私がお祭りに行くと、友達の家に行きかけたことなかった
ので、新鮮に感じました。お祭りは、家族だけでなく、親類と
の集いの場になっていると感じました。

こあら食堂夏まつり
「こあら食堂夏まつり」の動画をご覧ください。

明るさ一番ニュースレター
「こあら食堂夏まつり」の動画をご覧ください。

⑤ 明第2西地区

栄町1~8丁目・栄町西1~5丁目樋野口・古ヶ崎・古ヶ崎1~4丁目

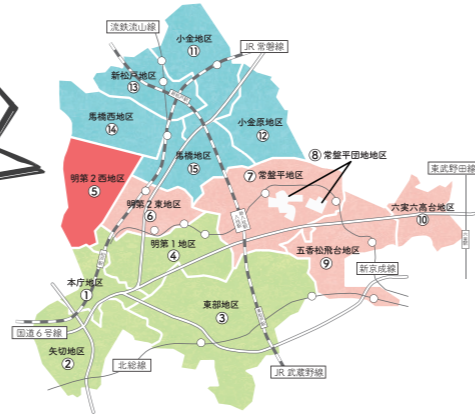
要支援者/要配慮者の避難行動の検討と避難訓練

要配慮者/要支援者に対する避難行動・支援内容を確認

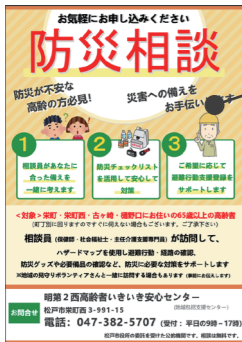
明第2西地区の現況(令和2年10月時点)

総人口	30,675人
高齢化率 (松戸市平均25.7%)	26.8%
75歳以上人口比率 (松戸市平均13.4%)	14.5%
元気応援くらぶ	3ヶ所

河川が3本(江戸川・坂川・六間川)あり、ハザードマップが赤の範囲(危険区域)が広域



- ◎災害に備えて、平常時にできることをサポートする
- ◎地域の高齢者を支えている関係者間の連携を強化する



2021.4月
地域包括支援センターによる【防災相談】の開始

2021.8月/10月
民生委員ならびにケアマネジャー対象に防災勉強会と情報交換会を開催



今年度の取り組み

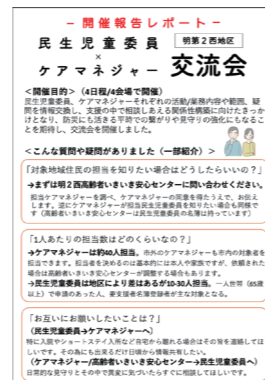
1 民生委員とケアマネジャー交流会を開催 (4ブロックで実施)

目的

平時からの支援者のつながりづくり

参加者

延べ民生委員 28名・ケアマネジャー 26名



2 要配慮者/要支援者に対する避難行動・支援内容を確認



要支援者の避難行動の検討

目的

ケアマネジャーが支援している要支援者の災害時の避難行動の検討を経て、必要な支援計画(平時の見守り強化等)へつなげる。

関係者

- ・ご本人、ご家族
- ・ケアマネジャー
- ・包括
- ・該当町会(町会長、民生委員など)
- ・ご近所の方

二次福祉避難所の運営確認

背景

コロナ禍の影響で、本人を交えた二次福祉避難所運営の避難訓練を実施できてなかった。

関係者

- ・ご本人、ご家族
- ・特養秋桜
- ・行政(高齢者支援課、危機管理)
- ・該当町会(町会長、民生委員など)



今後に向けて

日頃から町会など地域住民と要支援/要配慮者やケアマネジャーなどの支援者(専門職)が顔見知りになる機会やきっかけを創出できると良い。

例えば・

- ・地域住民が車椅子操作方法の練習など学び、体験する企画(専門職がレクチャーする)
- ・可能であれば要支援/要配慮者も町会行事に参加する

⑥ 明第2東地区

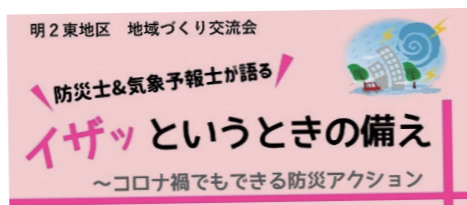
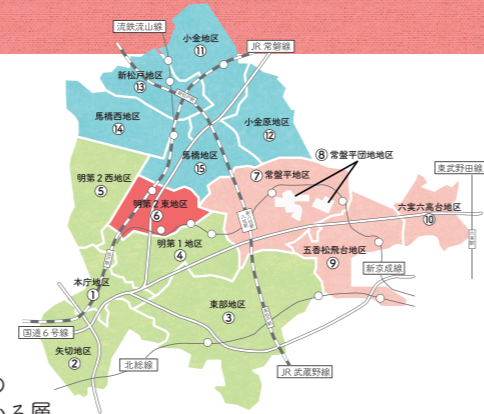
上本郷・北松戸1～3丁目・竹ヶ花・竹ヶ花西町
南花島・南花島1～4丁目・南花島中町・南花島向町

イザッというときの備え
～地域資源マップ（災害編）の
作成と地域のつながりを作ろう～

明第2東地区の現況（令和2年10月時点）

総人口	27,331人
65歳以上	5,948人
高齢化率 (松戸市平均25.7%)	21.8%
75歳以上人口比率 (松戸市平均13.4%)	11.0%
元気応援くらぶ	1ヶ所

- 坂が多く、道路まで階段がある家も多い。
(主に上本郷、北松戸地区)
- 常磐線と国道6号線、河川で生活動線が
分断されていて、西側のマンション群は、
地域とのつながりが少ない。
- 高齢化率は低く市内で3番目、都内通勤の
ファミリー層が多いものの、地域活動している層
との交流が余りない。
- 多くは住宅地で占められ、社会福祉法人に
よる高齢者関連施設がなく、把握できる範囲で、
通いの場などの社会資源が少ない。



今までの経緯

- ✓ **2019年度 買い物支援の試行を実施**
→たすけあいのしくみづくりを目指し、学習会実施
→その後コロナ禍で動きをつくれず
- ✓ **2020年度 コロナ禍でもできる活動の提案、創出**
→ラジオ体操やウォーキングの提案
→2か所で実施、町会ヒアリング実施
- ✓ **2021年度 住民アンケート実施、
アンケート報告会「防災士&気象予報士が語るイザッというときの備え」**
→アンケートから見えてきたキーワード
「災害」「移動支援」「居場所づくり」について意見交換

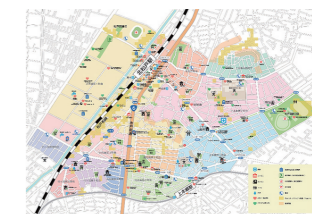
防災

「自分ごと」として考えてもらいやすい
地域活動の入口としてわかりやすい

➡ 地域資源を知ること、ファミリー層との接点づくりをねらう

今年度の取組みテーマ「防災」

- 9月～ **町会アンケート実施**
→ 備蓄倉庫、自主防災、要支援者名簿の活用などについて
伺い地域の状況を把握する
- 10/7 **「イザッ!というときの備え～災害図上訓練を体験しよう、
自分のまちに何があるかを知ろう～」開催**
→ 地域資源(人・物・活動)の可視化と地域住民の交流
- 12/21 **「防災まち歩き:北松戸～上本郷(ワーキングにて)」実施**
→ 図上訓練で学んだ危険箇所を実際に歩いて確認
～ 防災マップ作り開始～
- 3/11 **「イザッ!というときの備え～災害図上訓練から生まれた
「私たちのまちの防災マップ」を完成させよう」開催**
→ マップの周知と共に各自が持っている地域情報を反映させる



今後の流れ

- 防災マップを育てる(逐次情報を反映していく)
- 地区内数カ所で実施するまち歩きを通して、自助の視点だけでなく、
地域でのたすけあい、要支援者を見守る視点を育む機会を創出する

その他、ワーキングから生まれた活動

子ども食堂との連携(隔月)
高齢者の参加が多い、午前中の
手仕事企画への出張包括



手芸や工作などをしながらの普段の会
話のなかで困りごとなどを拾う。

近隣小学校の学童保育と連携
オレンジガーデニングプロジェクト(包括主催)
(認知症啓発のための花の植栽活動)に地域の
小学4～6年生が参加(3月末開催)



オレンジ協力員と一緒に、子ども
たちが参加することで、幹線道路を
オレンジロードとして地元根付
かせることがねらい。

自主運営サロン立上げ支援
住民から声があがり、
立上げの後押しを行う



コロナ禍前は利用者側だったシニ
アが、役割分担をして、自主運営で
新しいサロンの立ち上げを行った。
なった。

7 常盤平地区

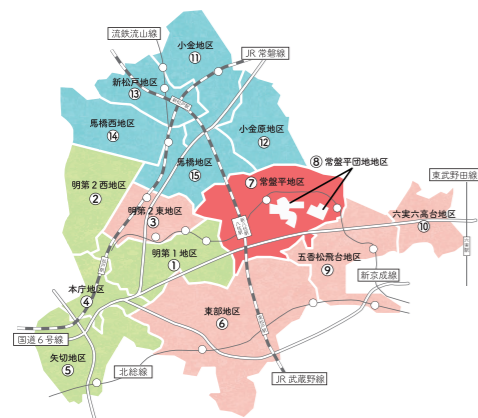
金ケ作・千駄堀・常盤平1～7丁目（常盤平団地の担当地域を除く）
常盤平双葉町・常盤平西窪町・常盤平陣屋前・常盤平柳町・牧の原・
牧の原1～2丁目・日暮・日暮1～8丁目・常盤平松葉町

災害に備える地域づくり

～見守りの視点で地区社協や町会の活動を見直そう～

常盤平地区の現況（令和2年10月時点）

総人口	53,147人
65歳以上	14,658人
高齢化率 <small>（松戸市平均25.7%）</small>	27.6%
75歳以上人口比率 <small>（松戸市平均13.4%）</small>	14.8%
元気応援くらぶ	8ヶ所



- 町会自治会の数は29、活動が盛んな町会が多い。範囲は広く、東西に距離がある町会では、サロンも少なく、集会所等に偏りがある。
- 災害について、安全な地域というイメージはある一方、自主防災組織や避難所運営委員会などの活動が進んでいる町会もある。
- 地区社協の活動が活発で、部会ごとに定期的に会議を実施。サロン10ヶ所、ふれあい会食会3か所とコロナ禍でも場所が増え、横のつながりがありお互い情報交換をしている。
- 地域活動の他、テーマ型の活動も多く存在する担い手の高齢化が課題。

今までの経緯

「防災対策として自助/共助を高めるために地域として何ができるか」

- 2019年度** 「災害弱者のための防災を考える」
小金原地区会防災部、避難所運営委員会立上げ者の講演会
➡ 町会防災アンケート、要支援者に向けた取り組みの共有
- 2020年度** 町会、社協など核となっていた活動停止状態
町会アンケートから見えてきたこと
市配信「松戸市総合避難訓練」動画視聴 ➡ 意見交換
➡ 不安! / コロナ禍での避難について町会活動ができない
- 2021年度** 町会、サロンや会食会など社協の活動や子ども食堂などの情報を共有
地域での様々な活動が見守りとなること、それが、いざというときの助け合える地域づくりにつながることの共通認識もつ。
「災害に備える地域づくり」～お互いにたすけあえるまちを目指して～
災害に備えてwebサイトを構築している町会の事例紹介
地域の見守りについて（地区社協サロン、ふれあい会食会、町会単位の見守り活動2事例）
➡ 災害弱者のかたを、暮らしのなかで無理なく見守れるしくみについて意見交換

2層ワーキング（通称：地域づくり推進委員会）での議論

「防災対策として自助/共助を高めるために地域として何ができるか」
上記をテーマに月1回、情報交換、意見交換の会議を実施

町会アンケート（往復はがき利用）…25回収/31通中

- 町会の行事について**
イベントはできていない所が多い
・人のつながりが希薄になってきた
・従来実施していた行事を元通りにできるか不安
- 見守りにつながる活動について**
・ほぼできていない、という返答のなかで、高齢者の見守り活動、防犯パトロール、春秋のクリーンデー、ラジオ体操。有志でおしゃべり会などの回答もあり
- 高齢者のスマホ教室をやってみないか**
・希望ありの町会に声かけ、実施することにする
➡ 災害時の情報取得に少しでもつながるように企画

ちょっとITが得意なお兄さんから教わる



普段のサロンや清掃活動などが、見守りにつながっている。
町会くらいの単位で見守りのネットを作っていきたい。

高齢者のスマホ教室

ねらい

- ・情報格差をできるだけ解消
- ・男性でも参加しやすい
- ・外に出るきっかけ
- ・人とおしゃべりして笑って過ごす場

- ・グループに分かれて少人数制
- ・使い方ある程度教えることのできる人をグループに1人配置
- ・グループの中のちょっとわかったひとが、周りの人に教えてあげる（関係性が生まれる）

➡ スマホサロン

地域づくり交流会

12月3日実施

住民の関心の高い「自助」を入口としたテーマで、交流会を企画…27名の参加



- 【内容】**
コープみらいの減災出前授業企画
・家庭での備蓄、災害発生時の行動
・常盤平の災害リスク
・どこに逃げる、どう逃げる
・在宅避難の備え
・わが家の防災計画（ワーク）

自助を入口に、共助を出口に

- ✔ 忘れていたものを思い出したり、準備できていないことが多くあることに気づいたりすることが多くありました。
- ✔ 家族とともにあらたに考え直す、話し合いするきっかけができた。
- ✔ 近所の方と良好な関係を作ることが大切と思いました。最近付き合いの狭い人が増えたという話があったのが印象的だった。
- ✔ 近所の助け合いを大切にしているといざというときにとても大きな力になると感じました。

8 常盤平団地地区

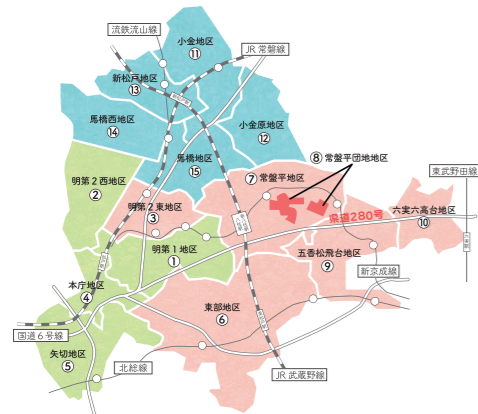
常盤平1丁目のうち駅上市街地住宅・常盤平2丁目のうち1街区・
常盤平3丁目のうち3街区・中央市街地住宅・駅前市街地住宅・セントラルハイツ
常盤平4丁目のうちE街区・常盤平7丁目のうち2街区・けやき通り住宅

常盤平団地で
ハッピーに暮らそう！

常盤平団地地区の現況 (令和2年10月時点)

総人口	6,982人
65歳以上	3,544人
高齢化率 (松戸市平均25.7%)	50.8%
75歳以上人口比率 (松戸市平均13.4%)	28.5%
元気応援くらぶ	0ヶ所

- 60周年を迎えた団地で構成された地区で高齢化率、75歳以上比率共に最高値。
- 自治会に力があり、一年通して大きなイベントを開催している。(コロナ禍では中止)。
- 外国にルーツを持つ人の割合は約10%で、大半は、ほぼ中国が占めている。
- 団地自治会、団地地区社協、団地民児協の地域活動はそれぞれ活発で結束力があるが、担い手の高齢化は否めない。
- 住民の高齢化で見守りが必要な独居の方が増えている、エレベーターがない棟の高齢者の移動などが課題。
- 同じような棟が並んでいるので、外部の事業者等が認知症の方をお連れしたときなどに棟番号がわかりにくく、家を特定しづらい事例が最近起きている。



今までの経緯

常盤平団地でハッピーに暮らそう！

2019年度 各戸あいさつ運動 約5500世帯の1/4、1200戸対象に実施
 住民の顔が見えなくなってきたという問題意識から実施
 支援が必要な方の情報を組織間で共有できた

2020年度 顔を合わせる機会をつくろう ※あいさつ運動は、中止を決定
 10月 あおぞらサロン 実施
 11月～E地区でのラジオ体操/毎週、開始 2月からは望のひろばでスタート

2021年度 外に出よう、顔を合わせる機会をつくろう
 5月 体操をしよう@望のひろば
 11月 お茶を飲む会@E地区 →直後に地区社協の「いきいきサロン」の再開
 4月予定 お茶を飲む会@E地区 定例化に向けた検討を始める

2022年度 地域ケア推進会議でのテーマを検討
 ・棟番号表示について(昨年からの継続)
 ・地域共生の居場所づくり(2022年4月検討)

構成員

地区会長
 地区社会福祉協議会会長
 常盤平団地自治会事務局長
 常盤平団地民児協会長
 常盤平団地地域包括支援センター

地域づくり会議 (2層ワーキング) を基軸に活動を進める

棟番号表示

試行期間:2022年10月1日～12月20日まで(E地区のみ)
 アンケート:ときわだいら新聞1/10号にて全戸配布
 結果掲載:ときわだいら新聞4/10月号にて住民報告

棟番号表示明確化提案の取組み

課題

- ・認知症の住民が増えつつあり、明確に自分の家を探せない事例がでてきた。
- ・外部者が部屋まで付き添う際に、わかりにくい、という声を聞く機会が多くなった。
- ・経年により現在の玄関灯の棟表示が見難くなっている

UR

- ・認知症の住民が増えつつあり明確に自分の家を探せない事例がでてきた。
- ・外部者が部屋まで付き添う際に、わかりにくい、という声を聞く機会が多くなった。
- ・経年により現在の玄関灯の棟表示が見難くなっている。

会議

- ・見やすい棟表示を試行して、数年後の大規模修繕に活かすためにアンケートを実施する。



居場所づくり

✓ 住民ボードアンケート

「あったらいいな、と思うあなたの居場所」
 5か所で実施 476シール(1人3点まで)約160名以上
 結果:①のんびり ②ごはん ③暮らしの情報



✓ 常盤平団地サポーター説明会

2022年10月12日(水)開催

- (参加5名)
 ・団地自治会、地区社協の説明
 ・ボランティアの心得
 ・やってみたいこと意見交換

✓ E地区でのお茶を飲む会 隔月開催 スタート

2022年10月26日(水)…40名
 ・夢竹公園にて
 2022年12月18日(日)…47名
 ・X'mas企画 ミニコンサート
 2022年02月26日(日)…37名
 ・歌と大正琴 ミニコンサート



✓ 常盤平団地暮らしフェスタ

独居になっても楽しく住み続けられるようなサービスの情報提供と事業者や住民などの交流イベント



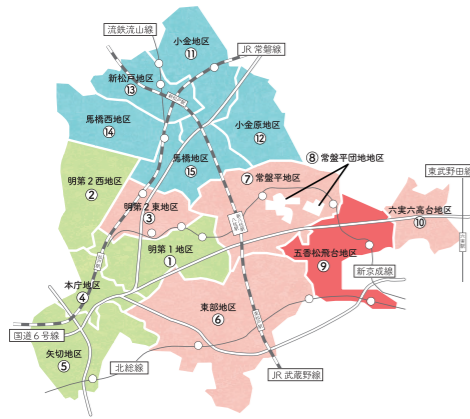
⑨ 五香松飛台地区

串崎南町・串崎新田・松飛台・五香1～8丁目
五香西1～6丁目・五香南1～3丁目・五香六実

地域資源マップを見直し、
活用できるようにしよう

五香松飛台地区の現況(令和2年10月時点)

総人口	36,018人
65歳以上	9,829人
高齢化率 (松戸市平均25.7%)	27.3%
75歳以上人口比率 (松戸市平均13.4%)	14.6%
元気応援くらぶ	5ヶ所



- 対象地域が広く、住宅密集地の五香/五香南地区、工業団地とその周辺の松飛台/五香西地区、串崎南町・泉が丘・串崎新田3つの自治会を有する串崎地区、と特色が大きく3つの地域に分かれる。
- 自治力が高い町会自治会が多くあり、高齢者支援連絡会の活動など、総じて地域活動が活発。
- 商業施設が偏っていて、歩いて15分以上かかる区域が点在する。
- テーマ型の活動が余り顕在化していない。

住民の顔が見えなくなってきたという問題意識から
実施支援が必要な方の情報を組織間で共有できた

今までの経緯

2019年度

3地区に分けてテーマ設定
「子ども食堂」「地域の見守り」「居場所づくり」

3つの地区に分けて各自でテーマ設定、地区別に交流会を実施

2020年度

地区内2日間で8か所、
ラジオ体操&ウォーキングを実施

コロナ禍で活動停止状態、昨年度からのテーマで進めるのは困難、と情報交換を重ねながら、少しでも外に出る機会を作り、この期間出会えなかった人に会う・外でできることを体感する・活動者のモチベーション担保をねらいとして、ウォーキングを企画。コースは地域住民で検討を重ねて決めた。

2021年度

認知症予防ウォーキングマップの作成

前年度に歩いたコースから3か所ピックアップ、サロン活動が停滞する中、外での活動を増やそうとマップ作りをした。下見のまちあるきをもとに情報を載せた。地域のことを知る、のめらひのひとつ。

構成員

- サロン運営者
- 子どもの居場所運営者
- 自治会福祉部兼務民生委員
- 特養地域連携担当者
- 市社協
- 五香松飛台地域包括支援センター



2層ワーキングの活動

月一回の会議：お互いの活動の情報交換と相談の場

課題

地域の活動が見えなくなっている
活動者のモチベーションが心配
新たな活動の掘り起こしが必要

2022・秋 サロン・サークル交流会

地域で活動している
サロンなど開催してみたい
ボランティアしてみたい
あなただ!

全員集合

【日時】令和4年10月25日(火) 13:30~16:00
【場所】五香市民センター ホール (定員30名)



- 町会・自治会サロン活動のアンケート実施
 - ・コロナ禍前のサロン活動
 - ・現在の様子
 - ・町会主催以外のサロンについて

- はつらつクラブ、元気応援くらぶ
 - ・活動状況の確認
 - ・交流会参加の呼びかけ

- サロン・サークル活動交流会 開催

事例紹介 ・コロナ禍でもできることを模索して活動を再開しているサロン
・町会主体のはつらつクラブ

意見交換 ・運営者、ボランティア受け入れたい人、
町会長等チームに分かれて意見交換

感想 ・各サロンの内容、企画がとても参考になりました。
・それぞれの地域での活動の内容を知ることができ、
・使わせていただきたいゲーム等も知ることができました。
・沢山活動している町会があるのにびっくりしました。

町会等の垣根を越えたつながり

ワーキングと地域ケア推進会議の連携

地域ケア
推進会議でのテーマ

支援のバトンから、
チームで伴走することを目指す

住民が介護状態になったら、サロン運営者から介護事業所にバトンを渡すだけでなく、その後も地域全体でそのかたを見守る体制をつくることを目指す

<チーム「地域」>

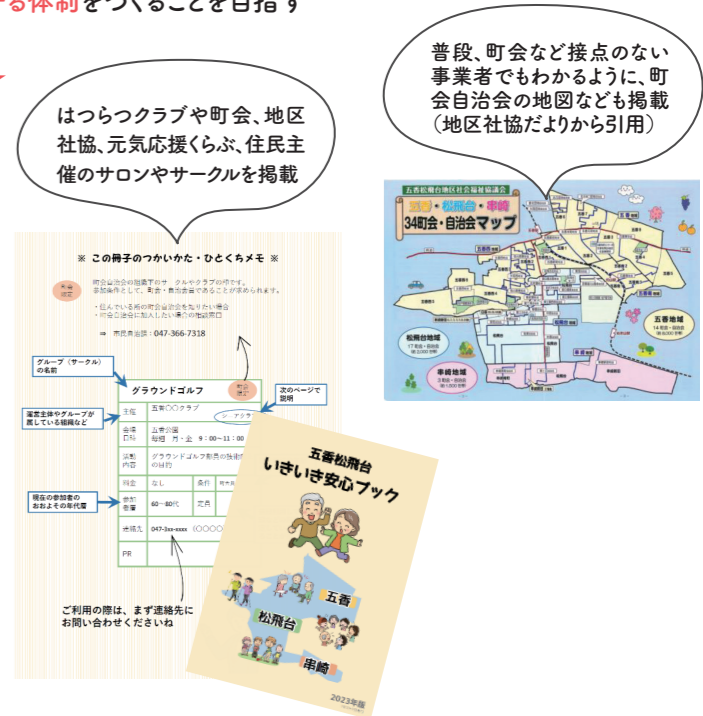
ケアマネ、支援機関・事業所、民生委員、
高齢者相談協力員、オレンジ協力員、
社協ボランティア活動者、活動仲間、近所の知り合いなど

地域とケアマネ交流会の実施(包括主催)

事業者、民生・児童委員、高齢者相談協力員、サロン運営者、町会長など地域のキーパーソンの交流会
そこで、冊子の紹介と配布を行うことができた
サロンやサークルなどに参加→生き甲斐を得られる地域につながる
支援者から紹介してもらうことがねらい

(2層ワーキングの役割)
インフォーマルサービスの情報提供

いきいき安心ブックの更新
平成29年度版のいきいき安心ブック(包括作成)の
住民主体のサロン活動やサークル活動などの
インフォーマルサービスの部分のみ切り出して更新



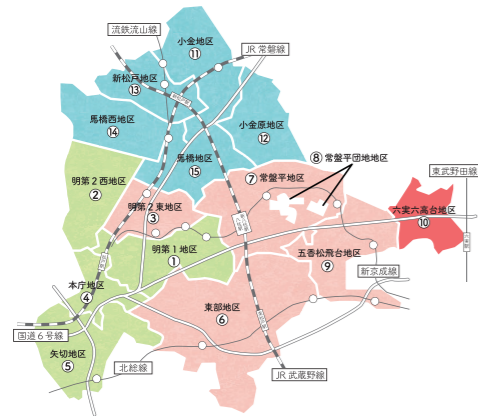
10 六実六高台地区

高柳・高柳新田・六実1～7丁目・六高台西・六高台1～9丁目

ウォーキングマップの活用と
シニアにやさしいごみ分別週間表と
年間カレンダーを作ろう

六実六高台地区の現況(令和2年10月時点)

総人口	23,814人
65歳以上	6,474人
高齢化率 (松戸市平均25.7%)	27.2%
75歳以上人口比率 (松戸市平均13.4%)	13.0%
元気応援くらぶ	5ヶ所



- 町会自治会、民児協、地区社協それぞれの組織の結束力と加えて、それぞれのつながりがある地域。
- 反面、地域活動していない人(主にマンション住民)との交流が希薄になりがち。
- さくらまつり、六実っ子まつり、と地域のシンボルになるイベントがあり、それが地域のつながりづくりに貢献している。

今までの経緯

2019年度

自慢できるまち六実PRIDEを育てよう
中学校長基調講演、地区内の様々な活動紹介

➡ 子育て世代の参加、お互いを知る機会

2020年度

六実六高台にキッチンカーがやってくる!

➡ コロナ禍で2つの子ども食堂が食材配布等で活動が拡大、情報交換きっかけに、子ども食堂の活動に共鳴

見守りが必要な家庭につながるためのツール、つながり継続、つながり直しのきっかけ

2021年度

六実六高台のタカラの地図で
ウォーキングをしよう

タカラアンケートを実施、それをもとにウォーキングマップを作成。
ウォーキングイベントを開催

・地域への愛着をもつ・外へ出るきっかけ

構成員

地区長、
地区社協事務局長、
地区民児協会長、
六実地区子育て井戸端会議、
子ども食堂運営者、
六実六高台地域包括支援センター



2層ワーキングの活動

六実六高台のタカラをまわってウォーキングしよう

昨年実施したウォーキングをまたやりたい、という声があがり、秋に実施することとなった



ウォーキングMAPの裏に
地域活動の紹介を掲載



ワーキングメンバー、民生委員の
皆さまのご協力により、秋の一日、
無事、歩くことができました
須崎優衣さんの記念碑前にて

ワーキングと地域ケア推進会議の連携

地域ケア
推進会議でのテーマ

ごみ分別が変わった。
分別表がわかりづらく、分別のできない高齢者が多い

高年齢者のスマホ教室

「ゴミ分別アプリを使おう」というテーマで実施

スマホ教室

令和4年 8月5日(金)
10:00～12:00 定員 20名

場所:六実市民センター 第一会議室

講師:齊藤和輝さん(コーディネーター)



★ゴミ分別がわかりやすくなるアプリを入れよう!★



名前、スマホをお持ちください

ごみの出し方もわかる!
その後、アプリの入れ方などもお話しします

スマホ教室

令和4年 12月9日(金)
10:00～12:00 定員 20名

場所:六実市民センター 第一会議室

講師:林 拓郎さん(イベントプランナー)



★役に立つアプリを入れてみよう!★

名前、スマホをお持ちください

2回目は、シニアの情報格差の解消を目的に実施。

ワーキングメンバーのネットワークのご協力で、4,50代が数名サポート側に入ることによって和やかに談笑する様子と満足度があがり、今後のスマホ教室の方策がみえてきた。

高齢者向けごみ分別週間表 カレンダーの作成

ワーキング会議で内容を検討した



市配布のごみ分別表が高齢者には読み取りが困難なため、視認性のいい、分別表を作成した。
(環境業務課に確認)



民生委員や包括、ケアマネなどが、訪問や支援に入った際のツールとして活用する。

町会などで、独自回収の情報を加えて配布も可能。

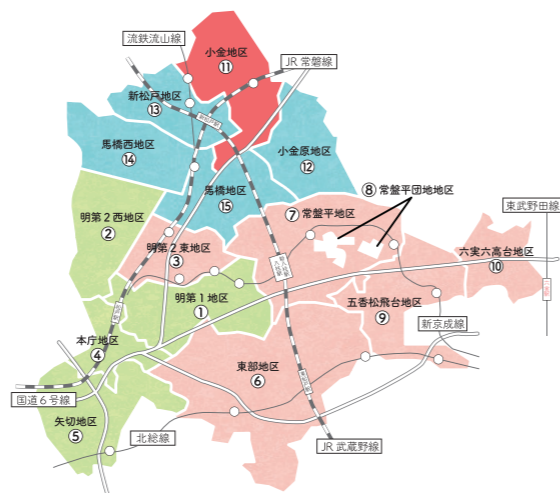
11 小金地区

幸田・幸田1～5丁目・中金杉1～5丁目・平賀・東平賀・殿平賀・久保平賀・大金平1～5丁目・大谷口・小金・小金きよしヶ丘1～5丁目・小金上総町・小金清志町1～3丁目・ニツ木ニツ木二葉町・根木内（国道6号西側）

小金にこんなこと
あったらいいなプロジェクト
～地域の助け合い活動を町会とのコラボで実現～

小金原地区の現況（令和2年10月時点）

総人口	44,167人
高齢化率 (松戸市平均25.7%)	25.1%
75歳以上人口比率 (松戸市平均13.4%)	12.9%
元気応援くらぶ	4ヶ所



- 元々地域活動が活発な地域で、町会自治会、地区社協、民生委員などの活動に参加している人同士のつながりが強い。
- 元々宿場町であった土地柄、古くから暮らしている住民の地域への愛着は強く、今後は新住民にも広げていく方法の検討が必要。
- 比較的若い世代も暮らしているが、地域活動に参加するきっかけがなくなっている。

ワーキングのテーマ設定の経緯

- 以前から地域の中での「お互いさま」の関係づくりをテーマとして助け合い活動の推進に取り組んできた。今年度は平賀町会との共催という形で住民へのチラシ配架や案件の募集・マッチングを行っていった。
- 助け合いの活動に賛同して協力しても良いという方に向けた研修会を開催した。また案件の依頼自体はそこまで多くないものの、いくつかの依頼については協力会員と連携しながら実施することができた。
- ワーキングでは他にも障がい者施設への支援活動などに取り組んできた。

ワンコインでの助け合い活動をテーマとした多世代交流

世代を超えたお互いさまの関係づくりを目指した「ワンコイン助け合い活動」の実施

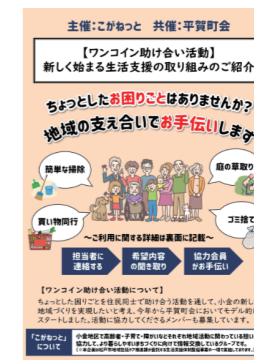
平賀町会を中心に述べ6件の依頼があり、そのうち3件は対応することができた。内容としては庭木の選定や照明の交換といったものだった。

地域づくり交流会

「小金ほっとTタイム

～まちの今昔タイムトラベル&助け合い活動報告会～

3月4日（土）13時～14時半@小金北市民センター
オレンジ協力員や町会の方、ポスターを見て初めて参加した方もいた。
助け合い活動の実績報告を行いつつ、地域の古地図や写真を持ってきてくれた方がおり、地域の地理や歴史を踏まえた話で盛り上がった。



活動のふりかえり

～次年度に向けて～

助け合い活動のさらなる普及と発展（課題への対応）

徐々に地域での認知度も高まって来ていることもあり、ニーズは確実にあると考えている。また協力しても良いと考えている住民も一定数いることが見えてきているため、今後は**ニーズと会員のマッチングの仕組みづくり**や、区内の他地域への普及などに取り組んでいきたい。

助け合い活動をきっかけとした日常の関わり

困りごと支援の依頼というなかなか日常的な取り組みになりづらいが、一方で依頼をいただく方は高齢独居であることがほとんどであるため、より身近な日常の関わりが必要であると感じている。そういった視点で、普段からの**住民同士のコミュニケーション**につなげていきたい。

12 小金原地区

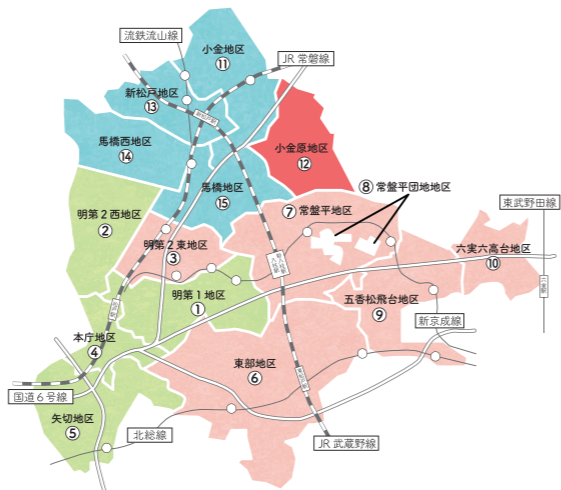
根木内（国道6号東側）・小金原1～9丁目・粟ヶ沢・八ヶ崎1丁目・小金1700番台

8050・ひきこもり→

多世代交流についての啓発活動と
小金原団地における助け合い活動

小金原地区の現況（令和2年10月時点）

総人口	27,541人
高齢化率 (松戸市平均25.7%)	33.0%
75歳以上人口比率 (松戸市平均13.4%)	19.3%
元気応援くらぶ	5ヶ所



- 地区内に有する小金原団地が市内で最も高齢化率の高いエリアとなり、50%を超えている所もある。一方で地域活動が盛んであり、元気なシニアが多い。
- 8050に象徴されるような、ひきこもり状態や障がいのある家族といった複合的な課題を抱えた家庭のケースが多々見られる。

小金原6-7団地 暮らしお助け有志の会

団地内での助け合い活動については地道に広報を続けて、少しずつ案件の依頼が入っている。今回は周知を兼ねて、メンバーからアイデアの出した無償での「交換会」のイベントを実施し、30名程の方に参加していただくことができた。



地域づくり交流会

小金原井戸端会議～小金原の暮らしをみんなで語ろう！@小金原中央公園～



3月18日(土)10時～14時 雨天中止
地域住民に広く開かれた対話の場として企画した交流会は雨のため中止となったが、企画の過程で実施した「井戸端会議」では、地域の実態など様々な意見交換ができた。

ワーキングのテーマ設定の経緯

引き続き小金原6-7団地の中で取り組む助け合い活動のグループの伴走支援を行った。案件は多くはないものの、ご依頼のあったケースについてはそれぞれの希望を聞きながら対応している。今年度は担い手の確保、他地域への展開をテーマとした。

昨年度から取り組み始めた、8050を象徴するような孤立した家庭、とくに困難さが複合的になっている家庭へのサポートを発展させ、地域における見守りや関係づくりをテーマにワーキングを開催した。

孤立を防ぐきっかけづくり、地域住民の巻き込み

活動のふりかえり

～次年度に向けて～

8050やひきこもりの問題意識から生まれた「井戸端会議」の発展

今年度は包括との連携を密にすることで、ケア会議との連動もスムーズにできたと考えている。特に地域で見えて来づらい、ひきこもりがちな家庭に対しては地域の目を増やすことが重要であると考えられるため、こういった地域課題を共有できる場を増やしていくことで育んでいきたい。

地域課題や活動の見える化を通して住民に発信していく

今年度発行してきた「井戸端だより」において、住民同士の対話の様子やそこで話し合われた地域活動の好事例をお伝えした。今後もより多くの人に知ってもらおうきっかけとして活用していきたい。

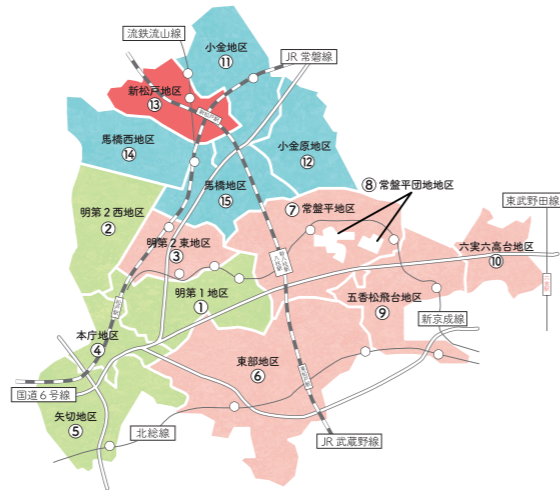
13 新松戸地区

横須賀1～2丁目・新松戸1～7丁目・新松戸東
新松戸北1～2丁目・小金1100～1300番台

歩き続けられる街を目指す
～公園での健康づくり活動&ベンチプロジェクト～

新松戸地区の現況 (令和2年10月時点)

総人口	37,356人
高齢化率 (松戸市平均25.7%)	28.3%
75歳以上人口比率 (松戸市平均13.4%)	12.6%
元気応援くらぶ	13ヶ所



- 通いの場をはじめ、マンションでのサロン活動など介護予防の資源が豊富にあったが、コロナ禍で活動停止になっているところも多く、フレイルの加速も課題になっている。
- 1970年代に開発された中・大規模マンションが多く、一斉に高齢化が進んでいる状況にある。特に後期高齢者の比率が高まるにつれて要介護者の急増も予想される。

ワーキングのテーマ設定の経緯

- 昨年度からテーマとしてきた「歩き続けられる街」を目標としての取り組みとして、2つのワーキングの活動に取り組んでいった。
- 新松戸中央公園で隔月で開催しているフレイル予防を目的とした体操イベントの継続。あまり社会参加ができていない高齢者が外につながるきっかけ作りを目的として行う。
- 街なかに誰でも気軽に座れる場所を増やす取り組みを継続して実施する。賛同いただけるマンションや自治会、商店などへのアプローチ。

公園やベンチを使って外に出やすい
きっかけを作り、フレイル予防する

新松戸みんなの椅子プロジェクト

住民のメンバーの手でロゴのデザインを行い、PRするためのステッカーを作成している。地道に周知を続けている中で9カ所の賛同を得ることができた。



新松戸在住のデザイナーさんにご協力いただき、プロジェクトのロゴが完成しました！今後賛同いただいた椅子やベンチにはこのロゴが入ったステッカーなどを掲示していく予定です。

～現在プロジェクトに賛同していただき、椅子やベンチが置いてある場所～



地域づくり交流会

公園DE体操&ウォーキング

3月28日(火) @新松戸中央公園 雨天中止

隔月の体操は年間6回開催し、延べで150名以上の方にご参加いただくことができた。3月に企画していた交流会では広く広報を行い、40～50名規模で予定していたが、雨天のため中止となった。



活動のふりかえり

～次年度に向けて～

体操の定期開催、社会参加の場をどのように増やしていくか。

これまで取り組んできた公園での体操については一定の成果が見られているが、全体から見ると一部にしかすぎないため、引き続きコロナ禍で引きこもりがちになっている層へのアプローチを検討していきたい。

これから加速するマンションを中心とした高齢化への対応

これまで住民同士の助け合いなども含めて、自助共助で対応してきた部分があるが、この先数年のスパンでより支援を必要とする高齢者が急増することが予測されるため、**日常の生活支援や見守りといった特にマンション単位での対応が必要になると考えられる。**

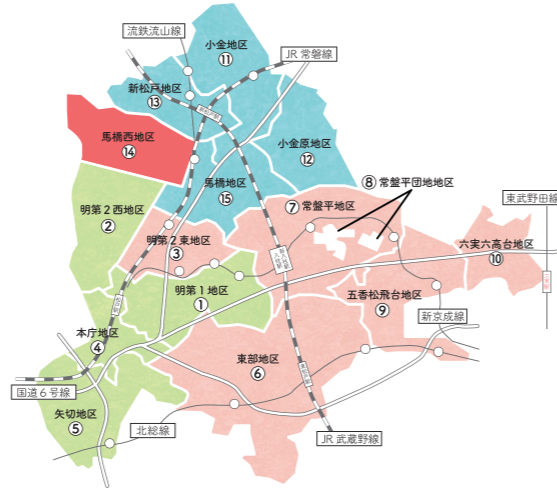
14 馬橋西地区

旭町1～4丁目・外河原・七右衛門新田・主水新田・新松戸南1～3丁目・
西馬橋1～5丁目・西馬橋相川町・西馬橋蔵元町・西馬橋幸町
西馬橋広手町・馬橋（JR線西側）

男性シニアの社会参加から
多世代交流の場をつくる

馬橋西地区の現況（令和2年10月時点）

総人口	22,627人
高齢化率 (松戸市平均25.7%)	25.8%
75歳以上人口比率 (松戸市平均13.4%)	13.3%
元気応援くらぶ	2ヶ所



- 駅前周辺、住宅地域、江戸川近辺といったエリアによって住民層の特徴が異なる。
- 公共施設や福祉施設といった資源に乏しく、高齢者が気軽に集える通いの場などが少ない。
- 高齢化率としてはゆるやかに上昇しており、農家が多いエリアでは高齢化率が40%近くになっている。

ワーキングのテーマ設定の経緯

- 地域で孤立しがちな高齢者、特に独居の中年～高齢男性はつながる機会が少なく、また参加を促す先の活動の選択肢が少ない、または休止している状況にある。
- 昨年度、ターゲットに近い属性の方々と共にワーキングを立ち上げ、継続的な活動を行ってきた。参加者同士のコミュニケーションの機会、地域住民を巻き込みながら工夫した。年間の数回はイベント的に多世代が参加しやすい企画をして、新しい地域の担い手の発掘につなげた。

新しい地域の担い手の発掘をテーマに活動継続

ゴミ拾い&ウォーキング

活動の継続(月1回)

毎月第2月曜の朝に駅前に集合して毎回約10名ほどで活動している。雨の日以外休みなく活動し、夏には中学生の参加(40名)、10月にはハロウィンと絡めた多世代企画で実施した。高齢の参加者の中には、ケアプランに位置づけて参加されている方もいる。



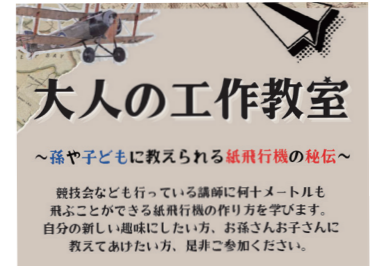
地域づくり交流会

大人の工作教室

～孫・子どもに教えられる紙飛行機のコツ～

3月27日(月)@馬橋市民センター
参加者…10名

参加しやすいきっかけづくりとして、これまでと同じく男性の参加しやすさを考え、工作をテーマに企画した。実際にシニア男性が多く参加し、継続して参加したいというアンケート結果も見られた。



活動のふりかえり

～次年度に向けて～

これまで継続してきた活動の継続と発展、特に**社会参加が乏しくなっている方**へのアプローチを引き続き検討していく必要がある。

依然、地域ではコロナ禍で活動を控えているという状況も見られるため、町会や地区社協の状況も踏まえながらコミュニケーションを図っていきたい。

推進会議などで取り上げられている課題についての検討

これまで「**悪質な消費者被害の対応**」「**孤立死に至る前の予防**」といった具体的な課題も検討されているため、地域で何ができるのか住民と共に考える機会を作っていきたい。

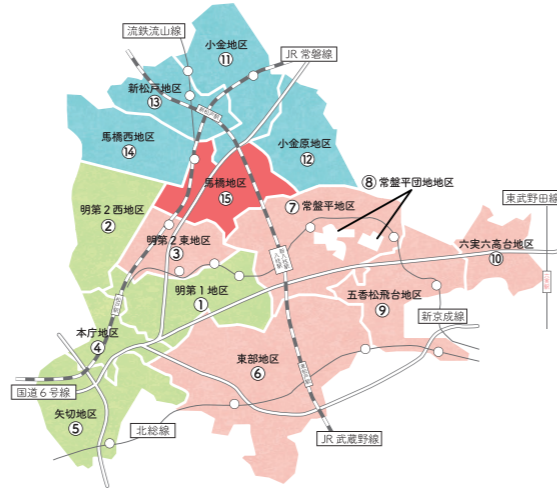
15 馬橋地区

馬橋（JR線東側）・三ヶ月・幸谷・八ヶ崎・八ヶ崎緑町
八ヶ崎2～8丁目・中根・新作・中根長津町・中和倉

多世代の居場所・つながりづくりと
高齢者×ペットの問題検討ワーキング

馬橋地区の現況（令和2年10月時点）

総人口	39,134人
高齢化率 (松戸市平均25.7%)	24.2%
75歳以上人口比率 (松戸市平均13.4%)	12.6%
元気応援くらぶ	3ヶ所



- 町会によっては戸建てが増えていたり、子育て世帯の転入も多いエリア。
- 元々町会自治会、地区社協をはじめとした地縁活動が盛んな地域である一方でボランティアの高齢化も課題となっている。
- 独居など日常の見守りを必要とする高齢者が増えてきているが、地域のつながりや関係が作れていないケースが多い。

ワーキングのテーマ設定の経緯

- 昨年テーマとして取り組んだ「高齢者×ペット」のテーマについて、より広く発信していくために他地区の包括向けの勉強会を開催し、ケアマネージャー向けの交流会の企画に至った。
- 日常的に見守りが必要な高齢者が増えているものの、普段隣近所との関係が作れていないと災害時など、いざというときに対応することができないことに危機意識を持ち、多世代で関わら合うことのできる取り組みを推進していった。

ワーキングの発展、日常からのつながりづくり

多世代食堂の再開・ 立ち上げに向けてのサポート

八ヶ崎で以前運営をしていた子ども食堂の運営者の方と話し合い、コロナで休止していた活動を再開できるようボランティアなど運営面で協働した。また同地区の別の子ども食堂の活動についても立ち上げにあたってサポートした。



地域づくり交流会

「馬橋のまちを歩いて *地域の防災力を高めよう!」

3月5日(日)
@馬橋東市民センター&オンライン
参加者…9名

地区会と危機管理課の協力を得て、実際に中学校に保管されている倉庫の中を見学させていただき、移動中に街なかで気をつけるポイントを意識したまちあるきを行った。



活動のふりかえり

～次年度に向けて～

これまで継続してきた活動の継続と発展、特に**社会参加が乏しくなっている方**へのアプローチを引き続き検討していく必要がある。

依然、地域ではコロナ禍で活動を控えているという状況も見られるため、町会や地区社協の状況も踏まえながらコミュニケーションを図っていきたい。

推進会議などで取り上げられている課題についての検討

これまで「**悪質な消費者被害の対応**」「**孤立死に至る前の予防**」といった具体的な課題も検討されているため、地域で何ができるのか住民と共に考える機会を作っていきたい。

災害から命と暮らしを守る 地域ミーティング

日時 2022年11月29日(火) 14:00-16:00

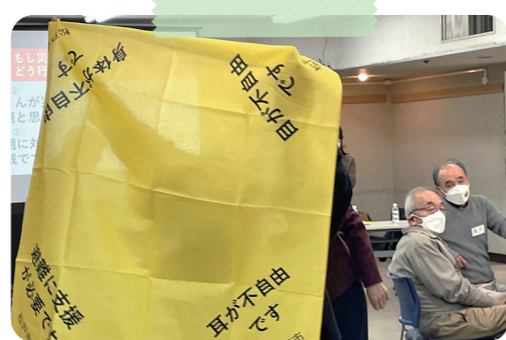
形式 まつど市民活動サポートセンターにて開催

共同企画 特定非営利活動法人まつどNPO協議会・NHKメディア総局・展開センター

背景 市内各地区防災を切り口とした地域づくりを行なっている中で、さまざまな立場の方々にご参加いただいた「地域ミーティング」を開催。地域ミーティングとは、高齢者や障害者など自主避難が難しい方の避難行動を地域や専門職など関係者とともに話し合う企画です。

参加者 地域(町会・自治会、自主防災組織)、障害をお持ちの要配慮者とご家族、その支援者(福祉・介護事業所)、松戸市社会福祉協議会、地域包括支援センター、行政(防災に関係する6つの課)など総勢54名

- 内容**
- 松戸市危機管理課より防災マップの紹介。
 - 長野県や大分県での災害時の要支援者への支援の取り組みや、避難訓練の様子をNHKの資料映像で紹介。
 - グループごとに課題やアイデアを出し合うグループワーク。
「市内とか町内とか、広い区分を俯瞰してみると難しく感じるが、隣の人をどうやって助けてあげられるか?を考えるとシンプルになる」「まずは町を歩いて、避難しやすい道、反対に危ない場所などを見つける」「クリーンデイにまずは参加する」など、身近でまずできることをはじめようという前向きなアイデアが多くあったのが印象的でした。



地域づくり報告会

日時 2023年3月16日(木) 15:30-18:00

形式 オンラインによる開催(サテライト会場を設置)
※主なサテライト会場
まつど市民活動サポートセンター/新松戸市民センター
常盤平市民センター

主催 特定非営利活動法人まつどNPO協議会
松戸市地域包括ケア推進課地域支援担当室

ゲスト講師 堀田聡子氏(慶應義塾大学大学院教授/認知症未来共創ハブ代表)

- ゲストからの講評**
- 清く正しい活動も大事な一方、より多くよりさまざまな世代に視点を向けていくのであれば、楽しさやワクワクなど心おどるような要素も大事。
 - 担い手側の意見や役割を作りつつ、こどもたちと一緒にこんな街にしていきたいを考える場や、認知症などの当事者の語りや生活の知恵を学ぶような場もあるとより良いのでは。
 - 困りごとなど呟きを拾っていくことと合わせて、小さく解決していく様が見えると地域や活動への期待感も繋がり、参加にも繋がっていく。
 - スマホを覚える、体操に参加する。それも重要だが、人によってはその先のステップや目標を見据え一緒に考えるような視点が必要。

ほった さとこ
ゲスト **堀田 聡子 さん**

慶應義塾大学大学院 教授
認知症未来共創ハブ 代表

東京大学社会科学研究所特任准教授等を経て2017年4月より現職。博士(国際公共政策)。社会保障審議会・介護給付費分科会及び福祉社会等において委員を歴任。学生時代から自立生活を送る障害者の介助等に携わり、人と地域がもともと持つ力の回復・再生の手がかりを探りながら対話と活動を続ける。

ごちゃまぜP1
子どもや若い世代が認知症の方と接点を持つ機会を創出し、役割を持つ機会や場を地域で創出することを目標としたプロジェクト

参加した当事者へのアンケート

①Aさん
・最初は行くのが嫌だったが行ってみたら楽しめた
・手作業が好きだから機会があればまた参加したい
・小物づくりや編み物ならできることがあるかも
・(ご家族より)外に出て人と交流する良い機会だった

参加者アンケート > 回答者38名(40代19名、50代14名)

①介護について相談できる地域包括支援センターをご存知ですか?
知らない: 26名(68.4%)
知っている: 10名(26.3%)
利用したことがある: 2名(5.3%)

ワークショップ参加者(受付集計) 142名

馬橋西地区
旭町1~4丁目・外堀原・七右衛門新田・主水新田・新松戸南1~3丁目・西馬橋1~5丁目
西馬橋相川町・西馬橋鉄元町・西馬橋中町・西馬橋広平町・馬橋(JR線西側)

- 「ゴミ拾い&ウォーキング」活動の継続(月1回)
▶毎月第2月曜の朝に駅前に集合して毎回約10名ほどで活動している。雨の日以外休まず活動し、夏には中学生の参加(40名)、10月には八口ワインと絡めた多世代企画で実施した。参加者の中には、クアプランに位置づけて参加されている方もいる。
- 地域づくり交流会(3月27日予定)
「大人の工作教室〜孫・子どもに教えられる紙飛行機〜」
新しく参加しやすいきっかけづくりとして、同じく男性が参加しやすいことをねらい、工作をテーマに企画。何名かの男性シニアの参加を予定している。

2層ワーキング(通称:地域づくり推進委員会)での議論

構成員 地区会副会長、地区社協事務局長、町会長(社協や地区会の役員兼任)数名、地区内特養代表者、高齢者支援連絡会事務局長(子ども食堂運営責任者)、常盤平地区地域包括支援センター

「防災対策として自助/共助を高めるために地域として何ができるか」
上記をテーマに月1回、情報交換、意見交換の会議を実施

町会アンケート(返率は約3割)
「防災は重要だが、高齢者の見守り活動は難しい」「見守り活動は高齢者同士で行うのがいい」「見守り活動は高齢者同士で行うのがいい」

高齢者のスマホ教室
「スマホ教室」を開催し、高齢者の見守り活動に活用できることを伝える。グループに分かれて少人数制で、使い方を教えることで、グループのつながりも深まった。高齢者の見守り活動に活用できることを伝える。グループに分かれて少人数制で、使い方を教えることで、グループのつながりも深まった。

見守りにつながる活動について
「見守り活動は高齢者同士で行うのがいい」「見守り活動は高齢者同士で行うのがいい」

高齢者のスマホ教室をやってみよう
「高齢者の見守り活動に活用できることを伝える。グループに分かれて少人数制で、使い方を教えることで、グループのつながりも深まった。」

見守りにつながる活動について
「見守り活動は高齢者同士で行うのがいい」「見守り活動は高齢者同士で行うのがいい」

高齢者のスマホ教室をやってみよう
「高齢者の見守り活動に活用できることを伝える。グループに分かれて少人数制で、使い方を教えることで、グループのつながりも深まった。」